

式 辞

春の日ざしに正門の桜が今まさに満開となり、皆さんを迎える日となりました。本日ここに第三十四回入学式を挙げていたしまして、ご来賓の皆様方におかれましては公私ともにご多用のところ大阪府教育委員会より中島主任指導主事様ならびにPTAより藤田会長、後援会より神船会長にご臨席賜りまして、誠にありがとうございます。高いところからでございますが、厚く御礼申し上げます。

さて、大阪府立刀根山高等学校、第三十四期生、三百六十名の新入生の皆さん、入学おめでとう。

また保護者の皆様には、本日は誠にありがとうございます。お子様方の晴ればれとされたお姿に喜びもひとしおのことと拝察申し上げます。

ここ刀根山高等学校はこの北摂の刀根山の地にありました大阪大学薬学部のあとに昭和五十二年に開校されました環境に恵まれた比較的新しい学校でございます。

新入生の皆さんが加わり 二十四クラス、九百六十名の生徒と七十四名の教職員で構成される高等学校であります。

さて新入生の皆さん、皆さんは 高校入試と言う難関を、見事に突破し、今、入学の喜びと、これから始まる高校生活への期待で、胸がいっぱいのことと思います。

皆さんのこれまでの努力と、誕生してから十五年におよぶ保護者の方々やまわりの皆さんのお蔭で、この刀根山高等学校で三年間学ぶことができる権利を手にして、いま出発点、スタート地点に立つことが出来たのだと思います。

皆さんには この刀根山高等学校で、ぜひ熱意のあるたくさんの先生方と出会ってほしい、良き書物に巡り合い、良き友達を見つけてほしい、そして皆さんの人生の原点、出発点になるような高校生活を送ってほしいと、強く思っております。

いま、高校生活の初めにあって、どんなことを考えているのでしょうか。授業、学校行事、クラブ活動を楽しく過ごすことを思い描いていることでしょうか。皆さんには ぜひ刀根山に入って良かったと思える高校生活を送ってほしいと思います。 その楽しいあるいは充実した高校生活を皆さんが手に入れるにはどうしたらよいのでしょうか。それは小さな約束やルールをそれぞれが守ることから始まります。

いま皆さんは三年間の権利を手にしたと申しましたが、権利には、義務や責任が伴います。まだ 法律上は未成年であります、小さな約束やルール、マナーを状況に応じて守ることのできる、小さな大人であってほしいと思います。

いま世界の大きな変動のなかにあつて日本は不景気、不況から立ち直ろうと、さまざまな困難に挑戦しているところでもあります。経済、技術、文化、どの点をとつても世界の国々は密接につながつて動いています。

そんな中で皆さんは、高等学校の門をくぐり、自分の近い将来のことを考え始めていると思います。世界や日本の動きに対応することができる自分自身の力、そして家族や周りの人々を支える力をつけることを、これからの三年間の高校生活で学んで行ってほしいと思います。

合格発表のあと新しい教科書を手に入れていると思いますが、いろいろな科目の教科書というのは人間の、人類の5000年を超える歴史の文明・文化がギュッと詰まったものがあります。授業では専門の先生方が、それを分かりやすく説明してくれるわけです。

皆さんはいろいろな種目のスポーツや競技をする場合に、走り込みやトレーニングで身体を鍛えること、筋力や基礎体力をつけることが大切であり、後で役に立つことを知っていると思います。

将来どんな道に進むのか、どんな職業に就くのか、まだ考えていない、あるいはわからない時でも、学習・勉強をこつこつと積み重ねて基礎的な知識や考えて理解をする力、すなわち基礎学力を身につけておくと、どんな進路の場合にもその力が生きてきます。近い将来のことを考えることは大切なことですが、決まっていないからと言って不安になることはありません。基礎学力、そしてそれを支える体力を、規則正しい生活を送りながら身につける、自分の力を蓄えていれば、どんな進路にも、どんな場面でも対応できることになります。得意なものがあれば、大いに学習や練習をして伸ばしてください。苦手な科目があるかもしれませんが、どの科目もお互いに関連があります。新しい気持ちで、もう一度取り組んでみましょう。

また現代は情報が高速であふれる社会です。そのなかで情報を選ぶこと、伝えることも大切な力です。友達と繋がること、メールだけでなく、あいさつができて、お互いの顔を見ながら、人の話をきちんと聞き、自分の思いをしっかりと伝える力。そして人と人を結ぶ力、コミュニケーションの力、チームのなかで生きる力を、あわてることはありません、規則正しい生活習慣を自分のものにしなから少しずつ身につけて行きましょう。

この力は待っていればだれかに用意してもらえる、提供してもらえるものではありません。自分から働きかけることが大切です。学校はそして私たち教職員は次の三つのお約束をしてお手伝いをいたします。

安全で安心して学べる環境を整えます。

確かな学力に、充実した授業で応えます。

そして みんなの将来を一緒に考え、希望する進路の実現に取り組みます。

いろいろな心配しないでも大丈夫です。もし困ったなと思うことが出来れば私たちに、先生方に気軽に声をかけてください。

生徒の皆さんに約束してほしいこと、期待することは先ほど申し上げましたが

一つ目に よき友達と、良き書物、熱意ある先生方を見つけましょう

二つ目は 自分の将来の進む道を見つめよう

三つ目に 自分のいろいろな力を、学力をたくわえましょう。

今日から始まる三年間をぜひ大切に、素敵な高校生活をスタートされることを願っております。

「初心を忘るべからず」。室町時代に能を極めた世阿弥の言葉です。今日では物事を始めたときの新鮮な気持ちや意欲を忘れてはいけない、という意味に使われることが多いですが、世阿弥の意図したところは何か修行を始めた頃の初心、すなわち未熟さを忘れないようにというものです。

いずれにせよ刀根山高校に入ったときの、今日の気持ちを、いろいろな場面、しんどい場面などでは思い出してみてください。

「継続は力なり」と申します。

しんどいことも楽しくやってみれば、意外に簡単に乗り越えられるものです。

改めまして保護者の皆様に御子様の入学に際し、一言お願いを申し上げます。

言うまでもなく、教育は、学校だけでできるものではございません。家庭と地域と学校が、手を携え、共に力を合わせて初めて力のある教育になるものと考えております。

先程来申し上げますように高校生は、いろいろな可能性を持った夢多い年代でありますと同時に、いろいろな迷いや悩みをもつ時期でございます。子どもから大人になる成長過程で、心が揺れ動き、友人関係や将来のこと等で、感じやすく悩みの一番多い時期です。また一方では、中学校までのように、保護者の方が一つひとつに口出しをすることに対しては、反発しますが、心の中では、まず話を聞いて欲しい、時にはアドバイスをして欲しいと思うこともあるデリケートな時期であります。

この時期の高校生への保護者の方の接し方は、今までよりも、一步引いて、しかし、しっかりと、子供の言動に注意をはらいながら、まずよく話を聞いてほしいと思います。その上で、もしも子供が間違っただけの考えや行動をしている時には、毅然とした態度で注意をしていただきたいと思います。

口で申し上げるのは簡単でございますが、実際には、保護者の方々も、悩みの多い時期でございます。そのような時には、どうか、遠慮されずに、担任の先生や学校にご相談いただきたいと思います。

そのような意味から、これから三年間、学校行事やPTA活動などを通じまして、本校の教育活動にご理解いただきながら、一緒に活動するなどして、ご支援、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

それでは、刀根山高等学校 三十四期生の皆さんの、今日から三年間の高校生活のスタートをお祝いして、入学式の 式辞といたします。

平成二十二年四月八日

大阪府立刀根山高等学校長
梅景一雄